



2021 今年もよろしくお願ひ申し上げます

理事長挨拶

新年のご挨拶を申し上げます。

このコロナ禍、私たちの生活は一変しました。大きくは人とのコミュニケーションの取り方にSNSが一層加速したこと、もうひとつは働き方が大きく見直されたことです。人と直接会って話をすることに躊躇する場面が増え、メールや電話が増えたことで、お互い行き違いが無いよう慎重に事を進めるようになったように感じます。感染リスクを恐れ、出勤を控えるサラリーマンも多く見られます。在宅勤務が可能な職種にはメリットはありますが、福祉現場はそうはいきません。再度緊急事態宣言が出され、おかし屋ぱれっとやたまり場ぱれっとは事業を一部ストップするという苦渋の決断しました。しかし緊急一時保護事業やグループホームなどの生活場面にリモートワークはありません。法人スタッフ一丸となってバックアップ体制を組む中、昨年はグループホームの入居者やスタッフの家族に感染が発生しました。幸いクラスターまでには至らず、如何に感染拡大を未然に防ぐか、危機管理が問われる場面を何度も目の当たりにしました。組織のトップには、利用者や入居者だけではなく、働くスタッフ・アルバイトの人たちの生活の安心・安全も考慮しながら業務を遂行しなければならない責任があります。

さて、昨年の法人全体を振り返った時、人事面でここまで大きな変化のあった年はありませんでした。コロナの影響か、スタッフ募集においても芳しい動きもありませんでした。接触の多い直接支援に不安を感じるスタッフやアルバイトもいて、少ない人数で如何に効率的に仕事を回すか考えさせられる日々が続いています。同時に限られた人数でもサービスの低下にならないよう現場スタッフと共に仕事を見直す機会にもなっています。また、業務の中では密接密集を避けるために色々な変革が求められました。顕著なところではあらゆる会議がオンラインになったことです。総会や理事会、たまり場ぱれっとボランティア会議などをオンラインにせざるを得ない状況は、運営的にはマイナス面もありますが、外部との各種連絡会など、直接出かけなくとも情報交換が可能な会議の持ち方は、時間の効率を考える良い機会となりました。医療現場が逼迫している中、感染は絶対にしてはならないという気持ちを新たにし、普段の生活に少しでも近づけられるようぱれっと一丸となって事業を進めていきたいと思ひます。利用者の方々には最大限に感染リスクに対応しながら、安心して日々の生活を送られるようスタッフ一同努力して参ります。皆様には本年も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(認定NPO法人ぱれっと 理事長 相馬宏昭)





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局▶

新年あけましておめでとうございます。昨年は色々な面で変化が多く、長年勤めた職員の離職や、作業所の売り上げ減、たまり場ぱれっとの活動全面休止など、人力的、経済的、事業展開など、多くの方々にご心配をおかけしたことと思います。普段は事務局に在籍しているスタッフも、支援の現場に入ったり、各事業の事務作業をバックアップしたりと今までになく多様な仕事に従事することとなりました。一方このような動きにより、今まで独立して行なってきた各事業の垣根が取り払われ、各現場の状況が職員同志でリアルタイムに共有されやすくなったことなど、想定外の効果もありました。

この状況が今後どのぐらい続くのかはまだまだ見出せませんが、その中でも「何が大切か」、「できること、やるべきことは何か」をしっかりと整理し、目標を定めて今年も事業に邁進していきます。ご支援よろしく願いいたします。(事務局長 南山達郎)

たまり場ぱれっと▶

明けましておめでとうございます。

皆さんの今年の抱負はいかがでしょうか？私は、大好きなアロマクラフトを利用した「丁寧な生活」を目指してまいります。

さて、昨年のたまり場は3分の2が活動休止状態でしたが、その間もボランティアと共に、これまで、そしてこれからのたまり場について議論を重ねて来ました。その成果のひとつが、「たまり場《はなれ》」というプチ開放日の始動です。今後も状況を鑑みながら、1グループ数人規模×4グループ程で室内・屋外イベントを開催してまいります。別途活動を再開したサンシャインダンスと同様、「コロナ感染対策マニュアル」の配布・「健康カード」提出の願いを徹底し、より楽しいたまり場活動を企画します。これからもどうぞ応援よろしく願いいたします。(職員 篁実紗)

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと▶

明けましておめでとうございます。昨年は作業所の一時休止や在宅就労、スタッフの離職等、大きな変化に皆が戸惑い、手探りながら必死に船を漕ぎ続けてきました。大幅な売り上げ減に伴い、通所員の工賃がこれまで通り保てず心苦しい決断をせざるを得ませんでした。これ程までに「仕事があること」の大切さ、一件一件の注文のありがたさを実感する一年はありませんでした。そしてこの苦境をぱれっと内外からたくさんの方に支えていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

感染に怯える日々がいつまで続くのか見当が付きませんが、私たちが元気に仕事ができるのも健康な体と心があってこそ。通所員からは「皆で集まりたいな」という声が聞かれます。また皆が揃って汗を流せる日を夢見て、今年も体調に気を付け、少しの前進④にも希望を見出しながら一步一步進んでいきたいと思っております。(所長 玉井七恵)



えびす・ぱれっとホーム/しびや・ぱれっとホーム ▶

明けましておめでとうございます。昨年は事業所のスタッフ体制の大幅な変更や新型コロナウイルスによる生活の変化などとても大きいことがありました。その大きい変化の中で、できるだけ日常に近づけられるように支援を続け、何とか新年を迎えることができました。入居者やご家族の方々に関しまして、利用料の値上げやスタッフ体制の変化など大変ご心配をおかけいたしました。ようやく様々な面で落ち着きを取り戻している状況です。今後に関しても、できる限り入居者へ寄り添った対応ができるようにしていきたいと考えております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。（副施設長 中本真一）

ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ) ▶

新年のご挨拶を申し上げます。昨年3月に計画していましたモンゴル国障がい児者支援団体 APDC からの父母、スタッフ招聘プログラムは、コロナ禍の影響で延期となりましたが、5月に APDC 幹部とオンライン会議を開き、組織運営についてアドバイスを行いました。マネジメントに関する質問を事前に受け、ボランティアに英語に翻訳してもらい、当日は日本語の通訳ができるモンゴル人を介し、理事会運営について課題を共有しました。再度9月に招聘プログラムが実現できればと準備していたのですが、この間、国際間でのプログラム実施はとても行なえる状況にはありませんでした。国際的にコロナ蔓延が収束することを願うばかりです。（PIJ 代表 相馬宏昭）

ぱれっとの家 いこっと ▶

新年あけましておめでとうございます。
昨年のいこっとは、新型コロナウイルスの影響により入居者を集めることに苦戦を強いられた1年となりました。新入居者を増やすことは、緊急性の高い課題となっています。いこっとサポートの会は、オンライン会議を毎月行ない、新しい打ち手や、今後の運営方針について議論を重ねています。新たな広報の施策としてプレスリリース発信や、外部の人や団体とつながりをつくる動きは準備を進めております。

いこっとの在り方、運営方針を定め直す1年にしていけることができると考えています。
（いこっとサポートの会リーダー 黒澤友貴）